

テーマ 農商工連携・6次産業化

組合員の革新を生み出すチャレンジ支援モデル

ドンと市かわさき協同組合

マーケティング志向に加え、組合員の新品種作付け、新商品開発等の経営革新を生み出す組合独自のチャレンジ資金制度が、変化し続ける組合を生み出す。

背景と目的

岩手県は、全国でも産直の激戦区といわれ、直売所間の競争が激化しており、鮮度や品揃えが悪い店や特色のある地元産品の少ない店、生産品以外の仕入品が多い店などは容赦なく淘汰され、年間売上が1億円以上の施設（店舗）と1,000万円に満たない施設（店舗）に2極化する傾向が顕著となっている。

特に産地直売所の課題としては、組合員である農業生産者の冬期間の生産品不足対策である。

当組合では、設立前段階から、年中、商品が途切れないようにするための仕組みづくりを目指して、組合員と何

度も協議を図り、また、成功している産地直売所等を視察し、ベンチマークを設定、好い仕組みを抽出して、それを目指していくための努力と様々な事業活動を実施してきた。

事業・活動の内容

顧客第一主義を実践し、365日無休営業やサービス向上を図り、産直施設を運営する上での3原則（①魅力ある商品を揃えていること、②売れる時間帯に商品があること、③良い商品を廉価で提供すること）を忠実に守り、マーケティングを実践している。

一方、イノベーションを創出する取り組みとして、チャレンジ資金制度がある。これは組合独自予算による組合員に対する補助金であり、各30万円の予算を与え、今、直売所に出ている物を作る組合員グループや班に対して、先行投資をさせる取り組みである。

これまで15件のグループや班で、「ア

イスランド」、「さくらんぼ」、川崎特産「ツルクビ芋の子」で作った「かまぼこ」、「シューマイ」、「コロッケ」など、新たな作付けや商品の開発が行われている。

新たな農作物や果物等の生産や商品開発を行うグループやテーマを各班が決定し、自主的な取り組みを支援することで、組合員の経営革新、生産革新、新商品開発等を生み出す仕組みとして効果を発揮している。

活動の成果

開業より10年が経ち、たくさんの野菜が陳列され、好評を得るとともに、加工品関連は県南随一の品揃えとポリウムを誇り、ヒット商品が数多くあるなど、四季を通じた商品供給により、県内トップクラスの約4億5,000万円の売上に加え、10年間連続黒字を達成している。今後は、売上高5億円の達成を目指し、さらなる組合活動の活性化に取り組む

でいる。

当組合の直売所の加工班では、組合員一人で年間1,000万円以上売上げる組合員もいるなど、組合員の付加価値向上に注力している。近年、組合員の高齢化が課題に挙げられており、加えて、若者の農業離れが久しいが、若い就農者にとっても魅力がある組合・産地直売所であり、若い人材を惹きつけ、育成していく仕組みづくりが加われば、持続的に変化し続ける新たな共同事業モデルとして注目される。

ドンと市かわさき協同組合

住所：〒029-0202
岩手県一関市川崎町薄衣字法道地42-3
設立：平成14年2月
出資金：9,200千円
電話：0191-36-5170
URL：http://www.kawanoakari.com/
業種：農業、林業、製造業、小売業、飲食店
組合員：145人
組合専従者：19人（うち専従理事1人）